

## 令和6年度 第2回浜田市総合教育会議議事録

日時 : 令和7年1月24日(金) 14:13~15:50  
場所 : 浜田市立中央図書館2階 多目的ホール  
構成員 : 久保田市長 砂川副市長  
岡田教育長 杉野本委員 岡山委員(欠席) 倉本委員 浅津委員  
事務局 草刈教育部長 藤井教育総務課長 山口学校教育課長  
鳥居学力向上推進室長  
学校 周布小学校宇野校長、弥栄中学校永岡校長、石見小学校浅田教諭  
開発元 株式会社 EDUCOM

### 議事

- 1 市長あいさつ
- 2 協議事項
- 3 その他

#### 1 市長あいさつ

藤井課長

ただいまから、令和6年度第2回浜田市総合教育会議を開催する。なお、本日、岡山委員におかれては急遽ご欠席との連絡をいただいている。開会にあたり、久保田市長が挨拶する。

久保田市長

市長の久保田である。今日は令和6年度第2回総合教育会議を開催したところ、お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。今日は委員方だけではなく、弥栄中学校の永岡校長先生、そして周布小学校の宇野校長先生、それから石見小学校の浅田先生にお見えいただいている。本当にお忙しいところありがとうございます。

5月に開催した第1回総合教育会議において、今年度の2回目については教職員の働き方改革、これをテーマにしたいということで申し上げていた。

特に、今年度から本格導入した統合型校務支援システム、これを議題として、皆様方からご意見を頂戴したいと思っている。

本日のレジュメにもあるが、まずは統合型校務支援システムについて説明をいただき、そのあと、教職員の働き方改革に関する施策としてどのようなものが考えられるか、その辺のことを協議させていただき、また意見交換をさせていただきたいと思う。今

日はどうぞよろしく願います。

## 2 協議事項

藤井課長

本日の傍聴者であるが、オンライン傍聴含め、傍聴者はおられない。会議を始める前に、本日の会議に出席いただいている方々の紹介をさせていただく。

宇野校長

まず、学校現場の方から、周布小学校の宇野校長先生である。よろしく願います。

藤井課長

続いて、弥栄中学校の永岡校長先生である。

永岡校長

よろしく願います。

藤井課長

続いて、石見小学校の浅田教諭である。

浅田教諭

よろしく願います。

藤井課長

次に、統合型校務支援システムの開発元として、株式会社EDUCOM さんである。

(株)EDUCOM

よろしく願います。

藤井課長

それでは、この会は市長が招集し、進行することになっているため、市長、協議事項について進行をよろしく願います。

久保田市長

それでは、着座にて進めさせていただく。

レジュメに従い、統合型校務支援システムについての意見交換と協議を行いたいと思う。

まず最初に説明をしていただき、それに対しての質問事項を確認して、その後意見交換をさせていただきたいと思う。

それでは、事務局から説明をお願いします。

藤井課長

それでは、統合型校務支援システムの概要について、株式会社EDUCOM さんから説明をいただきたいと思う。よろしく願います。

(株)EDUCOM

はい。それでは、画面共有させていただく。

久保田市長

先生方、画面が後ろにあるため、そちらを向かれた方がいい。

藤井課長

スクリーンが固定されており申し訳ない。

(株)EDUCOM

統合型校務支援システムについて説明。

久保田市長

ありがとうございました。

ただいまの説明に対して、ご質問や確認をしておきたいことがあるか。

各委員

特になし。

久保田市長

もしあれば、また後ほど伺う。

どうもありがとうございました。

株EDUCOM  
久保田市長  
山口課長

ありがとうございました。

続いて資料2について、事務局から説明をお願いします。

はい。学校教育課長の山口です。

資料2をご覧いただきたい。今年度運用が始まり、2学期が終わる時点のところで、学校の先生方に活用状況、評価、効果等についてアンケート調査をしたものである。回答は、小中学校合わせて267人、約7割回答というふうにご理解いただきたい。

利用頻度であるが、「ほぼ毎日」が全体の42%、「週に1~2回」が19%ということで、ここで大体61%、回答された先生方のうち3分の2の先生方が、頻度の高い利用をいただいている。

実際にどういった機能を使われているかということで、複数回答とあるが、学校日誌、出席簿、それから通知表については1学期からこのシステムを使って発行していただいているため、ほとんどの先生が活用されているということで、高い利用割合になっている。

一部100%になっていない部分は、事務職員も回答しており、直接業務に関係のない学校職員もいるため、その分100%になっていないことはご理解いただきたい。

それから、先ほどあった、子どもたちの日常の変容とか気づきの部分、いいところみつけという機能であるが、この部分は、これからどんどん追加していき、今後の活用ということで、研修等でも取り扱っていただいている。

今後、3学期から年度末にかけて作成する指導要録、学籍情報や学習の状況をまとめる資料であるが、この資料はこれから作るため、ほとんどの先生方にこれを使っていただき、効果を実感できてるかなというふうに期待している。

あと、健康診断や保健日誌、これは養護教諭が中心であるため、23校あるが、養護教諭を中心に、ほぼ100%活用が進んでいる状況である。

先ほどあったいいところみつけであるが、まだまだ活用が少ないというところがあるため、今後、課題として取り組んでいく。いいところみつけの登録ができていないため、それを活用した個別の指導については、まだまだ少ない状況である。

この校務支援システムの導入で校務負担が軽減したかという割合であるが、回答者の半数以上が、効果があったというふうにご実感している。具体的には、裏面になるが、こういった部分で効

果があったかということに記載している。

一番は、日々学校で作られる学校日誌の入力がシステム上でできるということ。朝、出欠の状況を集約するため、それが校内全体ですぐわかる状況になっている。それから、通知表作成にあたり、この出席日数とか、そういった集計業務がシステム上でできるため、この部分の転記がなくなり、確認作業の負担が非常に減ったということである。あとは、システムを導入して情報共有がきちっとできたということを実感されていると思う。

下段の方はそれをグラフにしたものだが、今回導入してまだ数ヶ月、2学期が終わったところであるが、ある程度の効果はあったのではないかというふうに、担当課としては思っている。

以上である。

久保田市長

はい、ありがとうございます。

今の説明にあったが、実際の、現場の先生方の感想をお尋ねしたいと思う。宇野校長先生と浅田先生から、まずは小学校の現場での感想を伺いたいと思う。その後、永岡校長先生からもよろしく願います。それでは、最初に小学校の方から願います。

宇野校長

失礼します。周布小学校校長の宇野です。

この校務支援システムについては、校長会から長年、市教委に要望させていただいており、本当に願いが叶ったというところで感謝をしているところである。今年度導入されたということで、ほとんどの職員が、まず校務支援システムを初めて触るという者がほとんどである。

東部から異動してきた者や県外から異動してきた者が本校にもいるが、前の学校で使っていましたという者もあり、それ以外の者はほとんど初めてであるということで、活用よりもっと前の、何ができるのかというところが、まだ十分浸透していない。あるいは設定とか、1学期で言う通知表の作成というところで非常に混乱をしており、各校苦勞していたんだろうと思う。通知表のレイアウトについては本当に各校苦勞しており、市内統一でやった方がよかったのではないかと等、そういう議論もあるが、今後検討していくことになるのかなと思う。2学期の終わり頃から、市教委のスタッフの方にも参加していただき、自主研修という情報交換の場を持って進めているところである。

私は自校の通知表を作ったが、本当にヘルプデスクの方とお友達になるかというぐらい、もう毎日のように電話をし、非常に丁

寧に教えていただいて助かったところである。

先ほどのアンケートの中にもあったが、使用した機能は便利であるということがわかってきていると思う。ただ、それをやるべき時期とか、業務をするときだけ使うというのが実態ではないかと思っている。

例えば、学校日誌であれば、本校は日直業務を命じているが、日直業務の日は学校日誌の入力をするからやるが、次に日直が回ってきたときに、どこだったっけというような、まだそういう段階ではないかと思う。通知表に関しては、1学期の終わり頃にやった、2学期の終わり頃になると、どうやるんだったっけとやった、またもうしばらくすると3学期の通知表を、多くの職員はどうだったっけというような、そういうスタートではないかなというふうに思う。

先ほど、EDUCOM さんの説明の中で、必要なときに使うシステムから毎日欠かせないシステムにということだったが、現場ではまだまだのところだなというふうに思う。いいところみつけとかダッシュボード機能というのは、いいところみつけていいらしいよ、やっていこうねというのを本校でも共有はしているが、なかなか使うに至らない。そこそこの人数の職員が、朝まずパソコンを起動するということがなく、担任業務をやっている者はもう教室に上がるという方が先であるため、パソコンを1日つけずに終わるとか、子どもが帰った後によりやくスイッチを入れるというような教師も少なくない。あと、その他の機能は、使うと便利だな、助かるなというところがまだわからないというところであるが、やったことについては負担感の軽減に繋がっているというのは、アンケートからも明らかかと思う。指導要録に関してはこれから取り組んでいくため、その時点で、先ほど申し上げた1年目の混乱が絶対起きるのではないかという感触がある。

それから、契約上の問題もあるのかもしれないが、知り合いの、他県でシーフォースを導入しているところでは、学校間の連絡もシーフォースで市教委から連絡が来るといような話を聞いたことがあり、シーフォースにはそんな機能があるのかと思った。浜田市の場合はデスクネットと、2つのシステムが今存在しているため、その辺も、得意ではない者については、どれを、何を使えばいいのという混乱はあるのではないかなと思う。

今年度始まったばかりで、今年度の職員の感想や感触ではなか

なか評価できないところがあるかと思うが、まずは、まだ1年一巡していないため、それが終わること、それから、何年か繰り返すことでだんだんわかってくるというところは間違いないのかなと思う。

先ほどの説明にあったが、直観的なインターフェースでぱっと見ればわかる。確かにそうであるが、直感的なインターフェースが直感的に操作できる者というのは、ある程度つづける人間ではないかと私は思っている。本当にわからない人は直感が働かない、というような難しさはあるんだろうなと思う。

私の方からは以上である。

久保田市長

はい、ありがとうございます。

それでは、続いて浅田先生お願いします。

浅田教諭

はい、石見小学校の浅田です。お願いします。

ほとんど、宇野校長先生も言われたような重なる部分がある。

まず、通知表のレイアウトについては、私も作成した側であり、本当に今回、導入と作成が同時進行だったため、かなり混乱はあり、時間も費やし、その中で何とか完成、とりあえず今年度のかたちをということで作成したというのが正直なところである。

導入の年であり、色々と、それこそ指導要録も今から操作していくため、今色々確認しながらとか、操作しながらとかで、そろそろヘルプデスクいくなとか思っているところだったりするが、そういう状況であるため、おそらく本当にこの操作がわかってきたら、良さをだんだん感じてくるという、やはり時間は必要だと思う。じわじわと、やはり楽になったなというのが、まだまだ時間はかかる。

例えば、やはり共通して同じシステムを入れたということであるため、異動して、この3月か4月になったときに、一緒だから安心と感じたり、ただ、またメンバーが入れ替わるため、その設定のところは多少混乱があるかもしれないが、そういうことを2年、3年と繰り返していけば、こういう感じだね、こうするんだねというのは見通しを持って、設定できたりとか、操作できたりというところが出てくるのかなと思う。

それから、先ほどの児童生徒ボードの話も、私は個人的には興味は持っていて、特に生徒指導上は、今までは色々なところにフォルダがあり、ここを見てくださいということだったため、それが、写真が入ったりとか、もっとこうなればいいというのはあ

ったりするが、そういうことで、一括して情報があるという良さは感じている。そのため、先ほどのいいところみつけなんかは、そこでは使う可能性が感じられるかなと思う。なかなかいいところを見るというところでは、まだ正直至っていない。ただそれが、アンケート結果もそうだと思うが、特にそういう記録するとかいうところは多様性があるため、自分にそれが合っているか、その操作方法や操作の仕方が合っているか、何かそういうところでやはり、いや、自分はこちらのやり方が好きだとかいうところで、おそらくそこは出て来やすいものだと思う。そのため、これを使わなくても、とりあえず今のやり方でいいというところで、やり方について、みんなが同じものを使えばというところはあんまり感じられない。

ただ、生徒指導上のダッシュボードのところに共通理解しておきたいことは、入力とか紐付けができるため、そういった点でいいところみつけを活用するというのには、何かこう可能性があり、そこはとっつきやすいかなというふうに、個人的には思っているため、12月末ぐらい、それこそ今回市の方でも、まず小学校ではあるが、今回シーフォースを導入されたということで、担当者、関わった者がちょっと集まってというところを校長会の方で提案していただき、そういう会で集まったときに、いいところみつけに興味があるが、結局、学級で記録したい、学級で入力したいという声もあり、それは結局職員室に行かないと入力できないかなあと、ちょっと敬遠されるというような意見も、実際はある。

というところで、なかなかシステムに合わせた方がいいという場合もあれば、まだ現場がシステムを選ぶというか、その分はまだ以前の方がよかったとかいうところも実際あると思うため、徐々に実感できるものも出てくるとは思う。慣れが必要だということ。1年が終わってみたりとか、異動を経験したりとか、学級が変わって学年を引き継いだりとかいうところで、徐々に感じてくるのではないかなというふうに思っている。

以上である。

久保田市長

はい、ありがとうございました。

永岡校長

続いて永岡校長先生お願いします。

はい。弥栄中学校の永岡と申します。よろしくお願いいたします。

先ほど、小学校の方から2人の方に詳しく説明していただい

た。使い勝手であるとか問題点に関しては、今聞いていて、小学校と中学校で大きく変わりはないため、繰り返しのある部分は省略させていただきたいと思うが、やはり先ほど出ているとおり、出席日数の集計であるとか、成績処理であるとか、そういったところにおいては、かなりの恩恵があるのではないかなというふうに感じている。

併せて、やはりどうしても先ほどの、ここは共通であるが、この1年は生みの苦しみというか、特に1学期、本校もそうであったが、通知表のレイアウトは各学校に任されているため、今までのものも、シーフォースの機能も活かしながら、どういうふうにすれば本校の特色が出るかというところで、1学期のところは、通知表のレイアウト作成等は苦慮した。まだその通知表は2回しか発行していない。そのため、今年1年はそちらの方がどうしても記憶に残りながら進めている。先ほどあったが、今後卒業を迎え、中学校で言うと進級、進学等も控え、指導要録の方のところでもこの良さが、まだわからないが、またそのところで、教職員にも浸透するのではないかなというふうに思っている。

とかくやはり教育現場では、慣れないことに対しては不安を持ち、教職員はどうしてもそれが負担と感じてしまう。特にやらされ感であるとか、そういうところが負担に感じてしまうが、先ほど、これも繰り返しになるが、使い込むことによって、その良さ、また先ほど言われた人事異動の季節になって同じものが使えるという利便さというのは、これから徐々に、じわじわ感じてくるのではないかなというふうに思っている。

そのため、先ほどのアンケートのグラフの一番最後にもあるが、負担軽減のところの数字も今後上がっていくのではないかとこのように感じており、現場としては大変有効に使わせていただいている。ありがとうございます。

以上である。

久保田市長

はい、ありがとうございました。

それぞれ小学校、中学校の現場からご発言いただいた。

それでは、続いて委員方、杉野本委員から、浅津委員、倉本委員の順番で、今のご意見等も踏まえて、説明を受けた感想、それから場合によっては先生方にご質問していただいても結構である。よろしく願います。

杉野本委員

情報の2次利用、3次利用ということで、出席統計であるとか、

そういったものが、色々な公簿等にも転記されていけるというのは、非常に便利なことだと思っている。どうしても、そこを確認するのが学年主任であったり、教務主任であったり、あるいは最終的に管理職が確認していく。その確認作業がこのシステムでできているとするならば、非常に簡素化されるというか、簡単にできるということになると、そこに使っていたエネルギーがもっと別のところにも使えて、主任クラスや管理職クラスでも有効なものがあるだろうと思う。

書き直さなければいけない、修正しなければいけないというときにも、いわゆる訂正印を押さないといけないとかいう時代があったが、そういう手間もなく簡単になっていくということを考えると、非常にこれは時間的な部分でのこと、それから、またやるのかというような部分での徒労感というか、そういったものが非常に少なく済むのではないかなという気がした。今これは、公簿としての役割を果たせていくようなことになっていくのか。このシステムで作られたものをそのまま使えるのか。

山口課長

そうである。公簿としては、浜田市の文書管理上、まだ紙媒体の、出力してPDFにして印刷して保存というのが基本になる。

ただ今回、もう卒業の時期で、最終的に卒業すると、卒業生台帳というものを作るが、その部分の管理については、今回システムが入ったことで、今までは紙だけの媒体だったものを、システムを使って、必要があれば出力し、公簿の情報をデータで保存するような運用を始めている。今後、この電子データを公簿として整理していくかというところは、一部、運用が紙の部分とデータの部分が混在している状況であるため、その部分は整理して学校現場に明確に示し、少しでも負担がないようにしていきたいと思っている。どうしても、今の紙をゼロにするというところは、確認作業を含めて、なかなかすぐにはゼロにならないのが現状である。

杉野本委員

先生方が慣れていくにつれて、こちらの管理する側の方も、保存する側のことも含めて、そちらも向上していくという必要が出てくるかと思った。

それから浅田先生の話の中で、職員室でないとこれは入力ができないということだった。ノートパソコンを教室に持って行って入力するということはできないのか。

山口課長

イメージしていただくと、浜田市の公用パソコンも、仮想ネッ

トワークということで、庁舎内のネットワークと外部のネットワークを遮断し、別システムで使用している。学校も同じような運用をしており、こういった児童生徒に関わるものは外部と接続しないような環境でネットワークを組んでいるため、教室でやろうと思えば、今教育用として、GIGA スクールで子どもたちもたくさん端末を使っているが、そちらのネットワークを活用して、何らかのセキュリティ対策をすれば、物理的にはこういった校務支援を教室であるとか、極端に言うと、家庭でも入力できる環境にはなるというところであるが、セキュリティの問題で、簡単にどこでも入力できる状況ではなく、職員室のみというかたちで運用しているため、その部分は、まだまだ学校の先生方の時間の活用については、負担感はちょっと減っていないのかなというような気がしている。

杉野本委員  
山口課長  
杉野本委員

教室に持って行って見ることはできるのか。それもだめか。

それもできない。

シーフォースの中のグループウェア、校務管理というのも、あまり説明にはなかったが、この中で連絡だとか共有というところを上手く活用していけば、今、朝職員が集まって職員朝礼をするというのもなくなっている学校が多いため、そういった部分を上手く使って連絡が徹底できるようなことになれば、それはそれでまた、子どもの成績管理、健康管理だけでなく、職員同士の連絡も上手く使えるようにまでなっていけばいいかなということも、聞かせてもらいながら感じた。

操作がわかってきたら、その良さがわかってきたらというところまで、ここ 2、3 年の飛躍的な皆さんの活用を期待していきたいと思っている。

以上である。

久保田市長

はい、ありがとうございます。

続いて浅津委員、お願いします。

浅津委員

1 年目はどの学校も大変苦労して導入されたんだなということが伝わった。初めは大変だと思うが、例外的なことだったりとか、アナログのときには欄外にメモもできていたようなことも、些細なこともシステムに入れていかないとということころは、これは先ほど浅田先生も言われたが、システムに合わせていくところも必要なのかなということと、もし改善が必要なのであれば、それも検討していかないといけないのかなと思った。上手くいっている

ところのやり方を共有したりだとか、ひとつずつやり方を、細かいやり方は今のところ学校に委ねられているところがあるのかと思うが、そこもだんだんに統一していくことで、また異動のときなどの負担軽減になるのではないかと思った。その辺りを教育委員会が主導しなければいけないのかなと思った。

EDUCOM さんに聞いてみたいのだが、タブレットを連動させて、教室で一部の機能を使うということはできるのか。

(株)EDUCOM

はい、メーカーの方からお答えする。

現状、浜田地区というか、浜田市と契約させていただいている契約内容というところでは、今言われたような機能は、ちょっと適用外というかたちであるため、そのセキュリティの観点だとか、そういうネットワークの、浜田市だけではなく3市3町であるため、そういったところのそれぞれの状況も踏まえて、今回はそういったかたちで判断されたというふうに思う。

ただ1点補足させていただくと、将来課題といったようなところでは、今言われたような機能や仕組みというのは、非常に求めもあるところであるため、また今後の状況の変化を、当社としてもしっかりとらまえて、協議等をさせていただければありがたいかなと思っているところである。

浅津委員

ありがとうございます。

600 団体が今使っておられるということだが、その何割かはそういったタブレットも導入されていたりするのか。

(株)EDUCOM

当社の持っているオプションみたいところで、シーフォースポータブルという名前だが、そういった授業用で使っているタブレットを使って、全部の機能が見えてしまうとちょっとセキュリティ上問題があるため、例えば出欠を入れるとか、話にあった日常所見を教室や廊下で入れるとか、そういったオプション機能というのは、当社の整備としては存在していたりするが、先ほど申し上げたネットワーク上のハードルみたいなどの判断だとか、コスト的な面、こういったところも含め、今回に関しては見送られている状態というところである。全国で見ると、何割かは、今の話に出ているような機能を活用しているという自治体はある。

浅津委員

ありがとうございます。

先ほど山口課長と永岡校長が言われたが、指導要録を今から3学期に入力するということだが、6年生の担任の先生等が、すご

く便利に感じてもらえたらいいなと期待している。

以上である。

久保田市長

はい、ありがとうございます。

それでは続いて倉本委員、お願いします。

倉本委員

実は私も現在使っている立場である。70歳を過ぎた私でも使えるようになるということであれば、繰り返しやっているうちに使えるのではないかなという気はしている。県の組織の校務支援システムが導入されたときは、画期的な助け、ヘルプをしてくれたと思っている。一番楽になったのが、先ほど話が出てきたが、保健の関係とか、出欠の一覧表が一発でできるということ。それから成績一覧表は、特に中学校、高校の先生、担任というのは、成績一覧表を書くのに、もう間違いがあると、そろばんで入力したときには、どこが間違っているかわからない。それが、エクセルで入力するともう一発で終わってしまう。それから通知表、指導要録、高校でいうと調査書とかそういうもの全部がそれで助かり、こんなに楽なことはない。年をとってもできるようになるため、もうちょっと長い目で見ていただくと、おそらくできるようになるかなあと思う。そういうふうな事務的なところは非常に楽になったなと思うが、今日話を聞かせていただき、実はやはり、いいところみつけないところ、これはもうちょっと活用する方法はないのか。おそらく小学校の先生と中学校の先生では、朝教室に行かれる時間というのは、大きな違いがあるかなと思う。おそらく小学校の担任の先生は、もう教室ですっと1日過ごされるということなんだろうと思うが、できればあの辺りの、本当はもう、高校でも与えられたパソコンは教室へは持っていけないというのが原則である。タブレットで授業をしている。そうすると、先ほども話が出たが、タブレットから自分のパソコンとか、今僕らがやっているのは、県から与えられた自分のパソコンからタブレットへ移して、それを授業に使っているとか、というふうに、結構使えるのかなという気はしているが、そういうようなことも、また今後参考になるかなと思うが、色々な面で、働き方改革の中で、こういうふうに色々なことを、パソコンの導入をしていただき、結構時間的に余裕ができたなら、その残った時間というのを子どもの指導に向けていくという考え方からすると、やはりいいところみつけないのは、その1つの目玉かなと思うため、何とか、色々な使い方の工夫とか活用の仕方とか、上手くできると

いいかなというふうに思っている。

以上である。

久保田市長

はい、ありがとうございます。

委員方からご意見いただいたところであるが、これは今年から入れたものである。今まさに、まだ1年経っておらず、どれぐらいの時間が経てば、倉本委員のように慣れたとか、良かったとか言えるようになるか。もうすでに入れた学校から見ると、2年ぐらいですよとか、3年ぐらいですよとか、その辺りはいかがか。

(株)EDUCOM

自治体によってももちろんある程度違いがあるが、丸1年まず使ってシステムにおおよそ慣れて、実はいいところみつけの機能かかというのは、通知表を作成するとか、指導要録を作成するといった、必須で絶対やらなければいけないというものではなく、どちらかという、活用するとすごくいいと思うが、必須か任意かという、割と任意利用、使える人が順次使っていくというような機能になるため、その点で言うと少し時間がかかっているかと思う。

ただ、今言われたような、より活用していこうという意識をどんどん前に出して醸成していただければ、それこそ3年と言わず、来年度のところで一定の方には使っていただけたらとか、といったかたちには持っていけるのではないかと思う。

1つ、参考にお話しさせていただきたい。全ての先生が同じレベルで一気に持ち上がるというのはなかなかない。その中で、ここに価値を見出していただき、自分はこれを使ってみようという先生が出てきたら本当に儲けもので、その先生と、その方がやっていたいでいいところみつけの活用というのを、周りに伝播させていくにはどうしたらいいんだろうというのが、また各自治体ごと学校ごとの風土が違ったりするため、そういったかたちもメーカーとしてサポートさせていただけたらということである。

久保田市長

そうすると、倉本委員の話にあった保健であったり出欠であったり成績表等、これはもう絶対必要な、義務的なことである。これはもう2年目ぐらいから大体できるようになるか。

(株)EDUCOM

そうであると思う。

久保田市長

ところが、いいところみつけ、これちょっと私も今日初めて聞いて中身がよくわからないが、生徒のいいところを入力したものなのか。少しご説明いただけるか。

(株)EDUCOM

ちょっと説明すると、学校現場になじみのある言い方で言うと日常所見といった言い方をするが、子どもたちの学校生活の中で気になった動静というか言動というか、動きみたいなところを、この子は今日ちょっとこういうところがあったよというようなことを、システムの中にメモしていける機能になっている。

そういった、メモして取りためた子どもたちの姿を、通知表のいわゆる所見欄に活かしたり、個々の日常からの指導に活かしたりというようなことができるが、いいところみつけないという名前になっているのは、当社の思いも入っており、日常所見という意味では良いところも悪いところも全部書くということがあるが、より子どもたちの良いところを意識的に見つけて伸ばしてあげるといった思いで、いいところみつけないという名前にさせていただいている。他の自治体の事例だと、ちょっとストレートな言い方で言うと、子どもたちの問題行動であったりだとか、あるいは問題行動ではなくても、ちょっとけんかしてすごく落ち込んでいたというようなことであったり、先生から見た子どもたちの気になるプラスの面、マイナスの面を含めて、そういったメモに残していくというようなことができる機能になっている。

久保田市長

今ひととおりご意見をいただいたが、導入責任者の教育長から、いかがか。

岡田教育長

この校務支援システムは本当に長い間懸案事項であり、入れるのであれば、市単独ではなく、この3市3町で同時に入れようということにしたため、よりハードルが高くなったわけであるが、ようやくこの市町の合意ができて、昨年4月から導入できることになった。

年度の少し前から試験的には使っていたが、まだまだ慣れていない中で、私が1学期の通知表からぜひ使ってくださいということを校長会で発破をかけたこともあり、担任の先生方に大変ご負担をかけたと思うが、なぜそれにこだわったかということ、年度末の指導要録に反映させようと思うと、1学期から入れておかないとなかなかそこが難しいということがあり、3市3町の教育委員会の中では、1学期は無理だから2学期から始めようという声もあったが、やると決めたら最初はもう負担はしょうがないということで、叱られることは覚悟の上で、校長会でそのように話をした。そこでもうちょっと私の配慮が足りなかったのは、各学校が通知表をそれぞれ独自のものを持っていたため、そ

の良さを活かしていただこうと思い、各校にフォーマットを作っていた。ただ、よくよく考えると、浜田市全体で1つのフォーマットであったり、3市3町で1つのフォーマットでやっても、むしろその方が効果が高かったかなという気が今になってしている。やってみて、動いてみてわかることは色々あるため、そのような気持ちで、学校の先生方も色々な項目を使っただけであれば嬉しく思う。

それで、今まで色々な意見をいただいたが、これは本当に成績処理であるとか色々な所見を書いていくと個人情報に最たるものになるため、このセキュリティというのは徹底する必要がある、実は教室の方でもそういう操作ができるといいが、どうしても閉じられた校内のネットワーク、あるいは教育委員会と繋がっている、その専用の中だけでやろうと思うと、今のような制限がかかってしまう。

ただ、全国的には、それをもう少し公衆の回線を有効に使って、セキュリティも維持しながらできないかというモデル事業的なものは、校務支援システムでも始まっているため、そこがある程度見えてきたら、浜田市、あるいは3市3町としてもそこに踏み出せるかもしれない。その運用上の問題があるということである。間違いなく便利にはなっていくため、ちょっと時期的なものはあるかもしれないが、そこはご理解をいただきたいと思う。

それから、先ほどのいいところの件も、ちょっと補足すると、担任の先生がいつも子どもを見ているわけではなく、事務職員の皆さんだったりとか、用務員の方だったりとか、色々な方が色々な場面でそういうところに出くわすわけであり、そうすると、それを聞いた人が入力すれば、担任の先生もそれを見たとわかるというような、広い目で、その子どものいいところを見つけると、ある場面で、こんないいことしてたんだねと声掛けするだけで、子どもにとっては嬉しいことであるし、自己有用感だったり色々なところに繋がっていくこともあるため、そのような活用が進んでいけばいいと思う。

それから最後に、今後この校務支援システム、今は3市3町でやっているが、できれば島根県の統一したシステムが一番良いと思っているし、先ほど倉本委員が言われたように、高校ですでに導入済みであれば、高校と小中学校全部一緒のものにしてしまうと、小学校同士だけではなく、小学校、中学校、高校までその個

人の持っている色々な成績なり、この個人情報というものを持ち上げることもできる。できれば、そういうことになっていくと嬉しいと思っている。

以上である。

久保田市長

はい、ありがとうございました。

県の市長会でも、本当はこういうものは県統一でやって欲しいという声がずっとあるが、それぞれ先行した自治体はすでにやっていたため、結果的には遅れていた3市3町と一緒にやりましょうよということで、結果オーライというか、後でやった分だけ、色々内容的にも良くなったこともあったかなと思う。ありがとうございました。

委員方から、このテーマでちょっと言い忘れたとか聞き忘れたことがあるか。

杉野本委員

いいとこみつけの話で、倉本委員がちょっと言われたが、こういった校務支援システムを使って、いわゆる教員が好きでない事務的な作業にかかる時間が短くなる分、しっかり子どもに関わるというのが、導入する大きな目的の1つではないかなと思う。

しっかり子どもを見ていないと、あるいは子どもの中に入って関わっていないと、子どもの良さとか、頑張りであるとか、数字には出てこない個人内での成長であるとか、友達への優しい部分であるとか色々なもの、子どもの中に入って見ていかないとそれは捉えられないし、そういう総合的な部分での良さを見るためには、教員が余裕を持って、こういう校務支援システムを上手く活用しながら余裕を持って子どもに関われるような、そういう時間がたっぷりとれるようになっていくといいかなというふうに思っている。

久保田市長

はい、ありがとうございました。

委員方、他にはよろしいか。

各委員

特になし。

砂川副市長

1つよろしいか。

私は事務方であるため、今の色々な機能をどんどん使われるということではない初歩的な話で、先ほど宇野校長先生が、先生方の中には、パソコンを開かないで授業に行かれるような方もおられるという話をされていたが、このシステムの中には出退勤システム等もあると、この資料には書いてあるが、先生方の出退勤というのは、これは使っておられないか。

宇野校長	デスクネッツというシステム上に出退勤のボタンがあるが、修正ができるため、朝開かなくても、帰る前にやっておかないと、今日何時に来たかな、7時半か、と入力する。
砂川副市長	なぜ尋ねたかという点、このアンケートに、ほとんど使っていないという方もおられたため、出退勤があれば必ず開いて活用しないといけない。慣れるということから言うと、そういう朝なり夕方なり、やはり触ることによって少しずつ進んでいくのかなと。その進み具合とは違って、開かなくてもいいということであればなかなか慣れていかない。その辺がちょっと気になったため、お伺いした。ありがとうございました。
久保田市長	この資料2のアンケート結果について、先ほどの説明の中で事務職員等も入っているという話であったが、使うべき人だけに限定した方が、正しい数字が見えてくるのではないかと。次回やるときに、普段使わない人も入れると分母が大きくなってしまいうため、その辺りはどうか。
山口課長	今回集計してみて、私どもも同じような考えがあった。次回、これは年度末に再度取り直すかたちになると思うが、改めて正規の教員ということで実施したい。
久保田市長	今年が1年目であるため仕方がないが、今後おそらく、2年目、3年目とこのアンケートを継続していき、どの程度浸透したかという部分がわかると思うが、アンケート対象に校長先生まで入った方がいいのかどうか等、使う先生方に限定した方が、はっきりと進捗度がわかるかと思う。次回から工夫をお願いします。
各委員	その他はよろしいか。
久保田市長	特になし。
杉野本委員	それでは、このテーマはこのぐらいにさせていただき、2つ目のテーマである教職員の働き方改革に関わる施策についてということで、校務支援システムもその1つであると思うが、ご意見、ご質問があれば、杉野本委員からお願いしたいと思う。
杉野本委員	施策ということとなると難しいところになってくると思うが、この働き方改革というのは、もうここ10年ぐらい前から話が出ている中で、コロナの時期に、一気に色々なことが、学校改革的な部分で加速して、働き方改革にも影響している部分があるのではないかなというふうに思っている。 学校訪問等で話を聞かせていただく中で、学校行事がかなり精選されてきているなということ、それから、生活時程についても、

学校の規模だとか実態に応じて工夫されてきていると思う。掃除のない日が週に何日もある学校があったりだとか、極端に昼休みを長く取って子どもたちを思い切り発散させる時間を取ったり、色々と工夫される中で、職員会議をきちっと確保するとか、先ほどこちよつと話したが、職員朝礼を全部なくすとか、色々と工夫されているという気がする。

時間数的なこと、色々あるが、大体行き着くところまでいっている部分もあるのかと思う。あまり行事を無くしすぎると、子どもたちの学校への魅力度が下がっていく心配もあるという気はしている。

色々な体験活動で育つ部分もあると思うため、施策ということになったときに、どうしても、あとは学校レベル、市町レベルを超えたところ、もう国の方になっていくと思うが、ひとつは、どうしても今、頑張っているが、教職員定数を変えていく必要がある、基礎定数をちょっと見直していく必要はあるのかなと思う。少しずつ35人学級にということは進んでいるが、あるいは中学年までの専科教員等もあるが、もっと基礎定数部分を増やして、先生1人当たりの空き時間をもっと増えるようにできるといい。学校を回っても、職員室に先生方がほとんどおられないという小学校が大部分である。

余裕があったらあったで、TTで、2人で授業をしようというふうに本当に一生懸命工夫されていて、もっともっと増やしてあげて、誰もが1日に1時間は空き時間ができるようにすると、ゆっくり子どものことを、それこそいいとこみつけで打ち込むだとか、あるいは子どもの日記を見るだとか、学級通信が好きな人はそれを作って学級経営に活かそうだとか、色々な部分での時間ができると思うが、どうしてもぎりぎりで、定数が少ないんだろうなという気がする。

それからもう1つは、学習指導要領にも関わってくるが、標準時数的な部分が増える一方で、そのおかげで、もう職員会議をする時間もなくなってというところも出てきたが、ビルドアンドビルドできているため、スクラップする部分を作っていないと、子ども自身もいっぱいになってしまうというか、やることが多すぎる中でとなっていくと、本当に大変である。この辺は、市町を超えて国への要望というかたちになっていくと思うが、本気でそこを考えていくべきところかなと思う。それが魅力ある学校にな

っていき、教員が増えていくということにもなってい、働き方改革は絶対そこにも繋がっていくと思う。学校の魅力化教育というところにも繋がっていくところではないかなというふうには思っている。ちょっとこの場で言うべきことだったかどうかかわからないが。そこの辺りは市町からでも国への要望として挙げてもらいたいと思っている。

久保田市長

はい、ありがとうございます。

それでは続いて浅津委員、お願いします。

浅津委員

先ほどの校務支援システムというのは、働き方改革の大きな柱だと思うが、それが実感できるには、ちょっと長い目で見ないといけないのかなと思っている。

私が今、すごくインパクトがあると思っているのは、部活動の地域移行であるが、全国的には学校の部活動を全て廃止というような自治体も出てきたりとか、少し前までは絶対無理だと思っていたことが、今保護者の意識も変わりつつあるため、今ならそういった改革もできるのではないかと思っている。そのために、活動中の責任の所在だったり、あとは金銭的な負担等のガイドラインを早急に作らないといけないのではないかなと思っている。

金銭的なガイドラインというのは、保護者の負担だけではなくて、指導者の報酬もそうであるが、今まで先生がほぼボランティアのようなかたちでしていたことを、地域の方にまたボランティアのようなかたちでもらうことはできないため、副業とか、そういったかたちでしたいと思っていただけるような報酬も必要なのかなと考えている。

子どもたちを混乱させることがないように、移行期を設けたりとか、その先の見通しまでしっかり説明をして、計画が一転二転しないようにしないといけないと思っている。

もう1つ、コミュニティ・スクールであるが、今までのPTAよりは、より自主的な活動になるのではないかとするため、学校がやらなくていいことは、ぜひそちらに助けを求めていけばいいのではないかと思っている。今までは、PTAの文書1つ作るのでも、大抵学校の先生がされていたのではないかとと思うが、このコミュニティ・スクール導入と同時に、その辺りも改善されたらいいのではないかなと思っている。

以上である。

久保田市長

はい、ありがとうございます。

では続いて倉本委員、お願いできるか。

もうかなり出たが、今、私の感じるところでは、小学校にしても中学校にしても、先生方の負担というのは、ひょっとしたら間違っているかもしれないが、保護者対応とか、それから多様化した生徒への対応ということかなというふうな気がしている。

保護者対応、正直に言うとなかなか良い手がないため、保護者対応については、ここでなかなか意見を述べられないが、そういう負担感を感じるようなところを、施策として、先生方にその負担を少しでも軽くしてあげようというのは、シーフォースや留守番電話というようなところも入ってきた。それから、AI ドリル等についても話を伺っている。

そういうレベルのものと、もう1つは、これも大きな話だが、小学校の教科担任制というところで、1つは、国でそういう動きをするのか、あるいは浜田市で少しお金を使ってもらい、浜田市で、各小学校に教員を、例えば専科の先生等を増やしていくというようなことをすると、それぞれの担任の先生の負担というのは、かなり和らいでくるのかなというふうに思う。

簡単に言うと、要するに人、もう今の教員の負担を軽くするのは人というふうに考えている。そのため、人を増やすことは、いわゆるハードではなくソフトの面での働き方改革、今の負担感を和らげる方法かなと思っている。

例えば、私はきちんと区別できないが、小学校等に色々なサポートに入っている先生方がおられる。それから、高校でもそうだが、印刷とか雑務を手伝ってもらえるサポートで入ってきている方も、浜田市にもおられ、授業に入っているという方もおられると思う。そういう方を増やしていくことかと思う。というのは、先ほどの教科担任制と並行して、人間を増やしていくというところが1つの施策としては考えられるかなというふうな気がしている。

ただし、これはいつも教育長が言われるが、資格が必要で、そういう方がなかなかおられないというところで必ず壁にぶち当たるが、何とか掘り起こしをし、少しでもそういう人を見つけて、予算立て、財政的な面で保障しながら、各学校に少しでも人をつけてあげることが1つの方法なのではないか、それが先生方の負担を軽くしていく方法ではないかなというふうな、精神面でも肉体面でも負担が軽くなるのかなというふうな気がしている。

久保田市長

以上である。

はい、ありがとうございます。

現場の先生方に私の方からちょっとお尋ねしたい。

昨日か一昨日だったか、新聞を見たら小学校、中学校の定員に対して応募者数の比率だったか、県別にデータが載っていた気がする。

岡田教育長  
久保田市長

採用教員の倍率か。

多いところでも3倍ぐらいで、少ないところは1倍ぐらい。つまり人気がない職種になっている。それは現場の皆さんから見て、なぜ人気がないと思われるか。働き方改革、忙しいからということだけではなくて、倉本委員が言われた保護者対応だとか、色々と精神的な負担もあったり、ここに色々なことの本質が現れているのかなという感じもする。

やはり、先ほど倉本委員の話の中にあつた教科担任制の話も、結局は、最後は人が欲しい。ところが、応募する人がいなければ、いくら言ってもなかなか対応できない。

宇野先生、いかがか。

宇野校長

我々はテレビドラマで憧れて教員になるという世代である。しかし、そういう、教員ってすごくいい思いをするんだよという時代ではなくなってきて、保護者対応だったりいじめの問題だったり、色々な子どもたちが増えてきた、大変だということが、色々なところでクローズアップされてきたというのは、1つあると思う。

先ほど倉本委員も言われたが、保護者対応は、若い教員にとっては、本当に負担なんだろうと思う。私も教員になった頃は、保護者の方が年上で、この若造に何がわかるかという、言われたことはないが、そんな感じを受けるわけである。若い教員に対してはやはり、ちょっと難しいタイプの保護者だと強くいく。そこに、例えばちょっとベテランが出ていくと、そこまで言わなかったりするというのはあるのかなというのは、体感的にある。お客様相談室ではないが、EDUCOM さんのようなヘルプデスクがあるといいなと思うことがある。ちょっと夢物語みたいなことを言って申し訳ないが、その辺は少しあるのかなと思う。

大変な側面ばかり、後は、春闘がこれから始まるが、賃上げと言っている割に教員はカットされて、いつ戻るんだろうか、戻っているのかと思っている間に私はもう退職を迎える。その処遇の

久保田市長

問題ももちろんあるのかなと思う。今度、調整額が変わるという話もあるが、いや教員にならなくてもこっちで食べていけるからと、おそらく教員が夢と希望ではなくなっているという気がする。我々世代がもっと夢と希望を語らないといけないのかというようなことは思う。答えになっているかどうかわからないが。

永岡校長

いやいや、何となくわかる。

永岡先生はどう思われるか。

大変難しい質問だとは思う。

やはり思うところは、先ほどの話は同学年のためよくわかるが、昔は教員になりたいという強い意志があって教員を目指す生徒が多かったかなという感じがしており、いわゆる色々な多様性、職に対する多様性といったところで、学校の先生というのはものすごく憧れの職業という部分もある中で、色々な職業が増える中での多様性の中で、昔は気がつかなかった仕事等も今増えてきている。自分を活かすというところの思いも多少あるのかなというふうに感じている。

ただし、私の肌感覚とすれば、私が以前、第三中学校で教諭として勤務していたときの教え子がちょうど今 20 代中盤ぐらいで、教員採用試験を受けて、近隣の小学校や中学校で働いており、確かに数字だけ見ると比較的少ない感じもするが、実際に浜田に戻ってきて働いている教員というのを数多く知っているため、そういう意味では、数字以上に、頑張っているお子さんも多いかなという気がしている。

それともう 1 つ、中学校に関して言うと、教科によって倍率の違いは多くあるが、今大学等で、教職員免許の専門教科が取れる大学が減ってきている。

具体的に言うと、昔は島根大学でも技術の免許は取れていたが、今技術教員の免許が島根大学では取れないといったところもあり、最近は中学校でも技術の免許を持っている教員が非常に少ないというようなことが起きているため、どうしても、教員になるために教職員免許を取得しなければいけないといったところで、中学校では、その教科の免許がないと、その教科として採用できないため、そういったところの、色々なところが総合的に絡んでのことではないかと、個人的には考えている。

以上である。

久保田市長

はい、ありがとうございました。

岡田教育長

人がいなければ色々と対応できない。先生のなり手が少ないというのは、単に働き方の問題だけではないような感じがする。

教育長、いかがか。

今、色々な報道で、なかなか先生方の勤務の条件が厳しいとか、色々とやらなければいけないことがあるということばかりクローズアップされていて、本来、先生として3学期を迎えて卒業生を送り出すときの、あの涙涙の卒業式のやりがいを感じる場面であるとか、そういうところに喜びを感じていただけるようなPRもちょっと少ないような感じがしている。そういった教員の素晴らしさということをみんなで色々な場面で発信していくということも、ある意味重要なのではないかと思うが、なかなかそれで今、本当に職業も多様な中で、教員を選んでいただくということは難しいかなとは思っている。そういう大きな課題をどうするかというのは、いち教育委員会だけではどうにもならない。

ただ、教育委員会も今、例えば、保護者対応のヘルプデスクがいるとか、特別支援に関しても色々な助言が必要になったりとか、そこは教育委員会の指導主事の先生方やスタッフにもきちんと入っていただいて、できるだけ現場をサポートするように努めているため、ご理解はいただいていると思うが、この体制は常に守っていきたいと思う。

それからもう1つ、働き方改革ということで言うと、留守番電話を入れたり、すぐーるというメールの配信ソフトを入れたり、校務支援システムを入れたり、学校ではやはりもうやるべきことはやられていてなかなか難しいところを、それじゃあ教育委員会がどうするかとか、県や国でどうするかということを考えていかなければいけないが、これから、先ほど杉野本委員も言われたように、授業時数についてもちょっと短くしたらどうかというような話も出てきていて、このようなことについてもしっかり話をしていく必要があると思う。

校長会からも色々と働き方改革に関して、労働環境の整備について記載した用紙をいただいている。ちょっと披露すると、人的支援ということで言えば、支援員や相談員の配置、拡充、それから今、学校の先生方が担っているような草刈作業や水やり、トイレの清掃であるとか、体育館のワックスがけ、プールの管理、そうしたものを専門事業者にお願いできないだろうかという切実な声も聞いており、それから会議室にも今、実はエアコンが入っ

ていない学校があり、会議をするのにも、そういう負担がかかる  
と何となく事務能力も下がるというようなことも聞いているた  
め、そういう声が教育委員会に上がってくるというのはとてもい  
いことだと思っているが、その1つ1つの課題にきちんと真摯に  
対応していけるように、教育委員会も努めていかなければいけな  
いと思っている。

最後に、浅津委員が言われたように、そういったところに地域  
の皆さんから少し力が借りられるものであれば、コミュニティ・  
スクールがそういうことで機能を発揮していくといいと思っ  
ているし、一方で、コミュニティ・スクールというのはまた地域に  
何かやらせるのかという声もあるため、いやそれは違いますよ  
と、ここで子どもたちが本当に郷土愛を持って育っていく、社会  
貢献するということができるように育っていけば、いずれ地域の  
担い手になってもらえますよということをもっと伝えて、そうい  
うコミュニティ・スクール事業が充実していくということを望ん  
でいるところである。色々申し上げたが、教育委員会もできるこ  
とをやっていきたいと考えているため、予算がいることもある  
が、頑張っていきたいと思う。

久保田市長

保護者の方の対応が、特に若い先生が大変だということで、ヘル  
プデスクを各学校に設けるとか、保護者対応はこの先生がやる  
とか、そういうことはできないか。

岡田教育長

予算が潤沢にあればということと、そういう人材がおられれば  
だが、ただ先ほど申し上げたように、指導主事でもそういう現場  
と一緒にいていただいてフォローしていただいたり、場合によ  
っては、ちょっとこれは弁護士の方から少し意見をいただいた方  
がいいのではないかというようなときには、市の顧問弁護士に相  
談させていただいたり、県の方もそういう人材を配置されたりし  
ているため、その辺りは少しずつ拡充しながらということにはな  
らうかと思う。

久保田市長

PTA 会長が何か、保護者の皆さんに、あまり学校に言いに行く  
のはやめようよというような呼びかけは出来ないものか。この辺  
りは難しいか。

宇野校長

PTA の役員方は非常に協力的である。言ってもらわなければい  
けないことはもちろんあるため、言っただけであればいい。

ちょっとずれるが、留守番電話を導入していただいたことが非  
常に大きく、教員も早く帰ればいいのだが、夜7時や8時半頃ま

でいると、8時を回ったぐらいに、忘れ物を取りにきましたというのが1日に何件もあった。留守番電話サービスが始まり、本校はそれに併せて施錠もしますということにした。忘れ物を取りに来られるときはそれまでお願いします、ということにしたら激減した。ほとんどなくなった。留守番電話の次に録音サービスがあるといいなと思う。抑止力になるため。

久保田市長

浜田医療センターができたのが10数年前だが、その時に、地域の医療を守る会というのが立ち上がった。これは各地域、市町村合併前の各地域の地域協議会だとか、そういう方々がメンバーである。地域の医療を守る会の目的は何だったのかというと、あまり軽微なことで病院に行くのはやめようという、そういうことでできた。というのは、これができた頃にちょうど産婦人科医が全国的に足りなくなり、産婦人科の先生方に負担をなるべくかけたくないということで、ちょうどその頃にそういった世の中の動きがあったため、病院に行くのをやめようというのは、行政が言うのが難しいが、市民運動みたいな格好で起こってきて、地域の医療を守る会が立ち上がった。

なかなか難しいが、地域の教育をみんなで守ろうよという市民運動というのはどうか。できないか。

砂川副市長

みんなで支えるというのが重要だと思う。学校の先生方、PTAだけではなく、今も市長が申し上げたが、地域の方も一緒になってやっておられると、そういうみんなで考えて、子どもを育てるための先生方の働き方改革というのはありだと思う。

その辺は実際できるかどうか、これからまた相談させていただきたい。市の立場としては、できる限り予算を配分するとか、そちらのことをやらせていただき、先ほどの特別教室へのエアコンの設置等もできるだけ早く進めたり、他の予算も、教育にも充実できるように、市の立場としては協力させていただきたいと思っている。

久保田市長

教育現場の先生方がこんなにご苦労されているのだから、負担をかけるのはやめようよというような、市民運動みたいなものは、杉野本委員、いかがか。

杉野本委員

それはいいと思う。ぜひ、旗を振っていただいて。

久保田市長

行政が旗を振るのは、なかなか難しい。そのため、市民運動として動くのは、浅津委員、いかがか。

浅津委員

私は協力的な方だと思う。学校にはそういった色々な話が入っ

- 久保田市長 ているだろうということは聞いている。
- 久保田市長 時間的なところで大変だという部分以上に、精神的な、特に保護者から色々言われたりだとか、電話がかかってくるだとか、色々されるこちらの方が堪えるのではないかなという気がしている。
- 杉野本委員 自分が校長をしていた頃に、PTA 会長が、苦情があれば自分も受けるというふうに言ってくださった学校があった。全部が全部、即学校にくる場合もあるが、そうではなく、まず PTA 会長がワンクッション受けてくれて、そこでもう、学校に行くまでのところで解決してしまうというような部分で非常に助かったということがある。その話はあとできちんとこちらに回してくれるというようなことで、必ずそうしろということではないが、そういうようなことがあったのは、学校にとっても、やはり眠れない出来事ということが出てくるが、そういったワンクッションで、後からこういうことがあった、上手いことやったから大丈夫というようなことも聞かせてもらおうと、助かるなあという部分でのパートナーというか相談役というか、そういうようなことは本当に心強いなあという気がする。今言われた、地域の教育を守る会という中で、まずそれじゃあ、保護者であればこちら、地域であればこちらの方へ相談してみるかというようなシステムがあるといかないかなという気がする。
- 久保田市長 先ほどの地域の医療を守る会が、ちょっとしたことでも病院に行き、特に産婦人科だという話であったが、先生方の負担が大きいところから全国的な動きになったが、ただその後、あまり聞かなくなった。教育を皆で守り、先生に負担をかけるのはやめようよというような、また地域で草刈とか、そういうことは自分たちで代わってやろうよというような市民運動にしていけば、先生方の負担も少しは減るかなと思うが、倉本委員、いかがか。
- 倉本委員 協力させていただく。
- 久保田市長 色々今回の働き方改革、先生方の働き方改革だけではなく、やはりその環境面というか、もっと大きな枠組みで何かしらやらないと、先生の負担、特に教員のなり手が少ないというのが一番気になっており、その負担感、精神的な負担感も含め、何とか取り除く方法をやらないと大変かなと思う。
- 浅田教諭 浅田先生、教育現場としていかがか。
- 浅田教諭 保護者対応はもちろん、言われるとおりで、先ほどの専科の話

も、すごくそれはあるとありがたいというのが本当に正直共感するところである。自分は今、専科の立場であるため、そうすると、何かそこに特化するので、このクラスでやったことを、今度はこっちのクラスで試してみるとか、やはりその良さはあるし、理科なんかにしても準備がたくさんいるため、それは担任が持っていて、他の教科もあるのに理科も、となったらやはり、放課後残って準備して、そういうこともやはり正直あるため、そういった部分ですごく魅力的な話だなというふうに、聞きながら思っていた。

答えにはなっていないが、以上である。

久保田市長

はい、ありがとうございます。

そろそろ予定の時間に近づいてきたが、ちょっと言い忘れたことやこの点がというのがあればお伺いするが、いかがか。

各委員

特になし。

久保田市長

今日、特に2番目の働き方改革は、私の方からもちょっと、結構大きな問題意識で提案させていただいた。先生方がやはり、なり手が少なくなるというところを何とか解決しなければということで、色々な観点から対応していかなければいけないのかなと思う。それは、ひいては地域の教育、子どもたちの将来ということにも影響するわけであるため、教育長、よろしく願います。

教育委員会だけではないかもしれないが、これはちょっと大きなテーマであるため、考えていきたいと思う。

以上だが、その他何かあるか。

各委員

特になし。

久保田市長

それでは、以上で本日の総合教育会議を終了とさせていただきます。事務局にお返す。

藤井課長

事務局からも特にないため、終了したいと思う。

皆様、本日はありがとうございます。

終了 15:50